

# 東京都東部の庭園 大田区

## カシャリ！庭園めぐりの旅

若い頃からひとり旅が好きで、経営コンサルタントとして独立してからは、仕事の合間に旅をしたのか、旅行の合間に仕事をしたのかわかりませんが、カメラをぶら下げて【カシャリ！ひとり旅】をしてきました。

旅のテーマは寺社や庭園めぐりです。

日本には「日本庭園」と呼ばれる庭園だけではなく、「イングリッシュガーデン」など、海外の庭園形式をした庭園も多数あります。寺社を訪れたときに、想定していなかったところに、庭園を発見することもあります。

下手の横好きで、【カシャリ！ひとり旅】を続けていますが、その一環で訪れた庭園を順次紹介してまいりたいと思います。

動画では、庭園の詳細説明は冗長になってしまいがちです。それをカバーするために写真も紹介し、その中で、動画では説明し切れていない部分を補ってくださると幸いです。

仕事のついでに行ったときは、スマホやコンパクトカメラで撮影していますので画質があまりよくなかったり、ピンボケであったりする写真・映像も含まれています。

また、アングルやフレームなどを十分に検討した写真ではなく、カシャリ、カシャリとシャッターを押した、私の限られた感性での写真ですので、たいした作品ではありません。

それらをベースにして、別途撮影した動画を加えてムービーとした作品を紹介しています。

私の旅の足跡のひとつとして作成していますので、独断と偏見でもって編集した駄作であることをご容赦くださるようお願いします。

### 【注】

【カシャリ！庭園めぐりの旅】の当インデックスページは、改訂作業中で、お見苦しいことをご容赦くださるようお願いします。

ユーチューブで見る [【カシャリ！庭園めぐりの旅】](#)

写真集は、下記URLよりご覧いただくことができます。

静止画：<http://www.glomacanj.com/butsuzou/meisho/indexmeisho.htm>

映像：<http://www.glomacanj.com/butsuzou/meisho/indexmovie.htm>

### 【注】

この資料は、【Wikipedia】などネット情報を編集して掲載しています。  
紹介している庭園等は、まだ、私が訪れていないところも含んでいます。  
写真等は、準備でき次第アップロード致します。  
映像集と庭園めぐりは、重複した映像が含まれています

## 庭園 大田区

### 山王草堂記念館（蘇峰公園）

Soho Park (Sanno Sodo Memorial Hall), Ota-ku, Tokyo

<https://oniwa.garden/soho-park-%e5%b1%b1%e7%8e%8b%e8%8d%89%e5%a0%82%e8%a8%98%e5%bf%b5%e9%a4%a8/>

<https://www.city.ota.tokyo.jp/shisetsu/park/sohou.html>

近代を代表するジャーナリスト・徳富蘇峰の旧宅跡（山王草堂）に残る記念館と青モミジの美しい池泉回遊式庭園が「蘇峰公園」にあります。明治～昭和の近代を代表する日本のジャーナリスト・徳富蘇峰の旧宅があった場所に、1988年に開かれた公園です。

入口には高くそびえる2本のイチョウがあり、これが公園の目印となっています。

庭園は植え込み、梅林、流れと池などで構成され、落ち着いた雰囲気漂わせています。園内にはイチョウ、マツ、クヌギ、ウメ、カタルパ、アジサイなどの樹木や花を楽しめます。

ここ馬込文士村の山王草堂記念館を訪れた人は、隣接する尾崎士郎記念館にもおとずれるようです。

開園時間 午前9時から午後5時まで

ここは、蘇峰が、2019年、東京から京都へ引っ越す前に、最後に足を運んだ庭園です。現在は、地域の公園というイメージが強く「庭園」とは言えない状況ですが、邸宅があった頃

の写真を見ますと立派な『邸園』であったことがわかります。

庭園内には石灯籠などの石造物が点在します。平安時代末期～鎌倉時代にかけてのものと推測されている古塚（小さい古墳）があったり、その向かいにある井戸から「もみじ池」に流れ込んでいます。

徳富 蘇峰 明治から昭和のジャーナリスト 蘆花の兄

とくとみ そほう

1863年3月14日（文久3年1月25日）－1957年（昭和32年）11月2日）

明治から昭和戦後期にかけての日本のジャーナリスト、思想家、歴史家、評論家。『国民新聞（現東京新聞）』を主宰し、大著『近世日本国民史』を著したことで知られる。

平民の目線で政治に切り込むジャーナリズムは画期的と言えます。一方で、山縣有朋、桂太郎ら、当時の政治家とも密接な関係にあったといわれています。

根津美術館の根津嘉一郎も、国民新聞の経営に参画していました。

京王線沿線にある『蘆花恒春園』は、実弟である小説家・徳富蘆花の旧居です。

徳富蘇峰は60歳を過ぎた晩年、この地に邸宅をかまえて「山王草堂」と称して生活していました。90歳で完結した全100巻にも及ぶ『近世日本国民史』の多くはこの地で執筆されました。現在記念館には、関連資料や親交のあった勝海舟（赤坂の勝海舟邸に借家）の書簡などが展示されています。

アクセス

J R 京浜東北線 大森駅より徒歩 15 分

大森駅より路線バス「馬込銀座」バス停下車 徒歩 5 分

〒143-0023 東京都大田区山王1丁目41-21

近隣 大森貝塚遺跡庭園

### 【 参 考 】

その敷地内の庭園についてはあまり説明板でも語られていないのですが、元々この地は蘇峰が買った時には雑木林があったそうで、自然の面影を強く残す池泉回遊式庭園。

その池泉庭園が大正13年の竣工と同時にあったかは不明ですが…敷地内には主屋の他にも蘇峰が収集した10万冊に及ぶ書籍を収蔵していた「成簀堂文庫」、草庵「一枝庵」、「牛後庵」という和風建築が存在していたそうなので、それらの建築の中庭として憩いのスペースにな

っていたんだろうと想像できる。

また庭園内には石灯笼などの石造物が点在するほか、平安時代末期～鎌倉時代にかけてのものとして推測されている古塚（古墳の小さい版）があったり、その向かいにある井戸の湧水？から流れを通して、“もみじ池”へ流れ込み、その名の通り池の周辺にはモミジが多く植わっている。ここも紅葉の時期に訪れたらよりきれいなんだろうなあ。

また園内にある“カタルパの木”は徳富蘇峰の師であり、同志社大学の創立者・新島襄より贈られたもの。正確に言うと熊本にある『徳富記念園』に植えられたカタルパにした挿し木した三代目とのことですが、5月には白い花をつけるそう。その時期にも訪れてみたい。

なお成篁堂文庫にあった書籍は現在は千代田区の『石川武美記念図書館』（旧お茶の水図書館）へ移っています。

東京には大名の江戸屋敷ルーツの日本庭園が多く残る——とは思っていたけど、今こうして歩いてみると近代の文人の旧宅・庭園も多く残るっぽい（林芙美子邸もそうでしたが）。ああこれは居た頃にもっと色々足を運んでおけばよかったなあ。今後東京へ来たなら新たな場所をもっと歩きたい。



### 【カシャリ！庭園めぐりの旅】

<https://blog.goo.ne.jp/keieishi17/e/adb4e888e2e1d9e1e369cf8372c0e7a4>

## 池上本門寺 理境院庭園

理境院（りきょういん）は、東京都大田区池上にある、日蓮宗の寺院で、山号は妙祐山と  
いいます。池上本門寺の子院のひとつで、照栄院・本行寺と共に池上三院家のひとつです。

池上本門寺総門の手前に在し、芝生と石を主体にした庭園があります。

九老僧（朗門の九鳳）のひとり、日輪が自身の住坊として開創した庵室である久成院が起  
源となっています。開創年代は鎌倉時代末の1321年（元享元年）といわれています。江戸  
時代の延宝年間に現在の名称に改称しました。

所在地 東京都大田区池上 1-34-3  
山号 妙祐山  
宗派 日蓮宗  
本尊 三宝尊  
創建年 1321年（元享元年）  
開山 日輪

### アクセス

東急池上線池上駅から徒歩10分。  
都営地下鉄浅草線西馬込駅から徒歩15分

### 関連サイト

池上本門寺 <https://honmonji.jp/>

### 【カシャリ！庭園めぐりの旅】

<http://www.glomacanj.com/butsuzou/meisho/tokyo/ohtaku-ikegamihonmonji/tokyo-oh-taku-ikegamihonmonji31.htm>



**池上本門寺庭園“松涛園”**

Ikegami Honmon-ji Temple Shotoen Garden, Ota-ku, Tokyo

2018年8月11日更新

池上本門寺庭園“松涛園”について 【通常非公開】「池上本門寺」は東京を代表する寺院の一つで、江戸幕府2代将軍・徳川秀忠によって建てられた五重塔や江戸時代後期に造られた宝塔が国の重要文化財に指定。現在も周辺には数多くの寺院・塔頭が集まっています…

**【注】**

ネット情報を掲載したもの以外の著作権は、下記にあります

c copyright N. Imai All rights reserved